

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101052		
法人名	(株)角八雲園		
事業所名	グループホーム ウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokoumyou.jp/katgostp/informationpublic.do?JOB=3270101052&amp;SCD=320&amp;PCD=32">http://www.katgokoumyou.jp/katgostp/informationpublic.do?JOB=3270101052&amp;SCD=320&amp;PCD=32</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成23年10月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

『笑顔あふれる陽だまりの家』をキャッチフレーズに、職員はご利用者の生活歴を大切にしながら、常に思いやりの気持で接遇しています。ご利用者のつぶやきや表情、行動からも思いを汲み取りケアに活かしています。ウェル・アイでは、ご利用者はともに暮らす仲間として日々の生活を大切にしています。時にはのんびりと散歩を楽しんだり、食材の買い出しに出かけたり、遠足や旅行にも行きます。地域ボランティアの協力で毎月開かれる歌の会や体操の会、習字の会も皆様大好きです。また、夏祭りや敬老会、運動会などの賑やかな行事も行っており、職員はご利用者と相談しながら準備を進めます。そんな中で、ご利用者から多くの事を学び、互いに尊重し、支え合う信頼関係を築いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所内で防災委員会を立ち上げ、年間を通して毎月の予定を決めてあり、利用者と一緒に話し合いや避難訓練を行い、安心安全な生活ができるよう努めている。行事でも1年間の予定を立て、毎月利用者と一緒に話し合い、準備、実践へとつなげている。特に季節の行事では、夏祭りに地域の人を招待したり、クリスマスには地域の子供たちにプレゼントを配るなど、地域との関わりを大切に継続して行っている。行事の後にはお疲れ様会をして、生活の変化で疲れがないか様子観察にも気を配っている。休日の職員が季節の花や旅のお土産を差し入れする等、利用者を一番に思う管理者と職員が一丸となって支援に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は毎年度末協働で理念の見直しを行い共有している。職員は、地域との係わりの中でご利用者一人ひとりが尊厳を保持し安心して生活できるよう支援している。	年度末に理念と「私達の宣言」を振り返り内容の周知徹底を図り、会議でも日常的に話し合い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災活動のメンバーとして活動している。その他、幼児招待、夏祭り開催、サンタクロースのプレゼント渡し等の行事や各種研修のご案内等を通じ利用者は日常的に地域と交流している。	行事や日常的な取り組みを通し積極的に交流している。子どもの日や夏祭りには100人位の人の参加があった。クリスマスには利用者がサンタクロースになってプレゼントを配る等、開設時より継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞『陽だまり』の発行や日頃の交流を通じて、認知症理解や支援方法を発信している。中学校の体験学習や専門学校の実習を受け入れ、青年の認知症理解に貢献し、近隣者への相談も随時受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果やサービス状況の報告をすると共に、各委員の意見や要望が出され積極的に協議されている。各会ごとに設定したテーマに基づく議論も活発で、得た意見をサービスの向上に生かしている。	利用者の状況や活動報告、外部評価の取り組み等いろいろな議題で話し合い、活発に意見交換している。認知症の理解を深めるため職員が寸劇をする等、内容を工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から市の担当者や包括支援センターと密な連携を保ち、問題や課題の解決を図っている。認定更新時には同席し、利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝えている。	利用者や家族の抱える問題だけでなく日常の気づきをその都度伝えて、解決に向けて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの方針であり、日中玄関の施錠はしない。職員はマニュアルを周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。布団のずり落ち防止にベットの柵を用いる場合でも家族とよく話し合った上で実施している。	決まったコースで外出する人は服装を覚えておいて、15分経過したら迎えに行き、30分経過したら探しに行くというマニュアルをもとに、見守りながら自由な生活の支援をしている。地域との連携もとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修し、身体的虐待はもとより心理的虐待への理解を深め、事業所内での虐待が見過ごされることの無い様注意を払い、全職員で、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なケースがあれば、管理者が中心となって各方面と協議し支援につなげる方針だが今のところ事例が無い。職員には、研修会参加等学ぶ機会が得られるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族に丁寧に説明して不安や疑問を解消し、理解納得を図っている。制度の改正等は都度文書で説明し理解を得ている。退所時及び利用中に生じた不安や疑問にも丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設置した意見箱への投入はないが、言いやすい雰囲気を常に大事にしており、意見聴取は日常的である。家族や利用者の代表は毎回運営推進委員会へ出席し積極的な意見の表明がある。それらはできるだけ運営に反映させている。	日頃から情報の共有に努め、毎月、介護記録をまとめたものを見てもらっている。家族との連携を心がけ、意見を引き出しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の意見や提案を生かす運営方針であり、月一回のリーダー会で意見交換をしている。管理者は日ごろから、職員の意見や要望、提案を聞いており、この会で検討する等して運営に反映させている。	会議や日常的に意見を聞くことに努め、意見を尊重しながら運営に活かしている。職員も積極的に意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室が完備され、休憩時間は勤務帯毎に適切に確保されている。サービス残業なしの方針で、必要に応じた時間外給与の支給がある。懇親会の費用補助等ストレスフリーへの配慮もあり職員から、働きやすい職場との声も上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の充実とともに、職員の各力量に応じた外部研修の参加を推進している。復命研修を通じて全職員への周知を図り、新人にはオリエンテーションをはじめOJTによるトレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は小規模ケア連絡会、グループホーム部会等へ参加し同業者との情報交換やネットワーク作りを大切にしている。職員は外部研修の機会に交流や情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から、面接や情報提供書により、不安や要望を把握している。利用初期は担当職員が一对一で寄り添い、不安を払拭し、安心して過ごせるよう努めている。気づきは全職員で共有しより良い関係づくりに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って耳を傾け、不安や迷い、困っていることを受容している。要望や情報は速やかにケアにつなげており、本人様の様子を密に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談では、必要とされているサービスを的確に判断し、必要があれば他のサービスについての情報を提供したり、包括支援センターを紹介する等して適切なサービスの選択を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、相談し合っって行事を計画したり、利用者と職員は常に協同して生活している。利用者から学ぶことも多く、そういった場が沢山持てるよう工夫し、言葉使い等にも配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め共有し、共に利用者を支え合える関係を築くために、電話や手紙、面会時を利用して情報の交換をしながら支え合える関係作りを心がけている。月一回家族に向けてホーム便りを発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問を、職員も一緒に歓迎しお茶を入れてもてなし、関係性を保つための取り持ちを行っている。馴染みのお店や温泉等に家族も誘って行くことがある。	家族が昔の知人を連れて来たり、毎年、家族も一緒に温泉に宿泊する等、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集いの時間には、皆で楽しく過ごすための計画や工夫を行い、孤立者がいない様気配りを行っている。また、気の合う利用者同士でお茶を楽しんだり、助け合っって一緒に家事ができる様に声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際には面会やお見舞いを行ったり、退所後も家族からの相談にのったりアドバイスをを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話の中で希望や意向を聴取している。言葉にされない方の場合、表情や態度から思いや意向をくみ取る努力をしている。それも難しい場合は、ケア会議等で本人本位に検討している。	つぶやきを拾うよう心がけ本人本位に支援している。表情がいつもと違う時は職員間で話し原因を探ったり思いを察知し、気分転換ができるように外出などの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者は、既担当支援者からサービス利用経過について情報を得、家族や関係者からは生活歴や暮らし方等についての情報を得ている。入居後も本人との会話の中で今までの暮らしぶり等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、できる事、分かる事、したい気持ち等を明確にするとともに、日々の観察で知り得た情報はケア会議や送りノートを通じて全職員が周知し、現状を総合的に理解するよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でのアセスメント後、本人、家族を交えてカンファレンスを行っている。それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成し、モニタリングは毎月のケア会議で行っている。	全職員でアセスメントし、アセスメント総括表、日課表など具体的な話し合いを行い、利用者、家族と一緒に作成している。介護記録を1ヶ月毎にまとめ家族に提示し意見をもっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、毎日の暮らしぶりやつぶやき、健康状態等について、職員の気づきや工夫を個別に具体的に記入している。職員はいつでもこれを見て情報を共有でき、ケアや計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どうしても都合のつかない家族に代わって受診に付き添ったり、買い物などその時々ニーズに合わせて柔軟に、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体操の会、歌の会、フォークダンスの集い等ボランティア活動を受け入れ利用者に楽しんでもらっている。外出先に地域の大型店舗や公共施設を利用することも多く、都度楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が嘱託医をかかりつけ医に希望し、24時間の対応が得られている。それ以外を希望する場合も、事業所は病院と良好な関係を保ちつつ適切な医療が受けられるよう支援している。	毎月2回嘱託医の往診を受けている。専門医受診は職員が同行しているが、状況を知ってもらうために、時々家族にも同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は非常勤で、リ介護職員は日々のかかわりの中で気づきや情報の提供はしているが、協働にまでは至っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ本人の情報提供をし、適切な治療が受けられるよう配慮するとともに、早期に退院できるよう協力している。退院時には医療関係者と連携して支援計画を見直している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては意向伺いのアンケートを記入して提出してもらっている。過去において嘱託医他と協働してターミナル期を支えたことはあったが現在のところ対象者が無い。	終末期ケアの研修に力を入れ、外部講師による講習を受けるなど、方針の共有や再認識に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の中で心肺蘇生や初期対応の訓練を定期的に行っている。急変時の対応についてもホーム内研修を行う一方マニュアルを整備し万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日を『防災の日』と定め利用者を含めて防災について話し合い、避難訓練を繰り返し実施している。近隣の協力員体制を整えて、合同防災訓練も行っている。地域の協議会との連携もある。	スプリンクラーの設置に伴い、ホーム内で防災委員会を立ち上げマニュアルの見直しなど行った。毎月計画的にテーマに沿って利用者と一緒に話し合いや避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるような言動をしない配慮をしている。個人情報保護についても、服務規程に明示するとともに、研修をして適切な対応を徹底している。	家族のような親しい関係の中にも、言葉遣いや訪室時のノックに気をつけている。利用者の状況を見て職員同士が連携し、洗髪や歯磨きを促すなど、さりげなくケアすることを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の希望や思いを引き出せるような言葉や態度に工夫している。意思表示困難者については、表情や態度から察し、何をどうしたいか、何が欲しいか、複数の選択肢から自己決定を促す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課の流れはあるが個々の希望やペース・体調に合わせ、日々その人らしい時間を作るよう工夫して過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を自分で選んだり、化粧したりしておしゃれを楽しんでもらっている。職員は不十分な所や乱れをさりげなく直したり「素敵ですね」「いい色ですね」等の称賛やアドバイスを言い意欲を失われないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いた雰囲気の中で職員も一緒に食事し、準備も片付けも個々の力に応じて協働して行う。季節感を重視した献立を嚙下力に合わせた形状で、家庭用食器で提供している。バイキングや行事食は特に喜ばれる。	声掛けにより自主的に手伝いに参加され、危険の無いよう見守りながら支援している。メニューの希望を聞いたり、デザートやおやつを選択してもらう等希望に沿うよう対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は柔らかく調理し、個々の状態や習慣に合わせた形状で提供している。水分量確保に気を配り、種々の飲み物を用意してこまめに促し、喜んで摂取してもらえよう器を変えたり言葉掛けにも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため食後の口腔ケアを徹底し、一人ひとりの力に応じて介助したり磨きなおしをすることもある。義歯の場合は週一回の薬品洗浄を併用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便リズムやそれぞれの排尿パターンを把握し、さりげなく誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。利用者によっては早めの声かけで失敗を防ぎ、できるだけ紙下着を使わない支援をしている。	定時誘導や状況を見て見守りながら支援している。紙おむつの使用を減らしたり、ヨーグルト、バナナなどで体調作りをする等工夫している。トイレが多く利用者は安心して使用できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と解消に向け、日ごろから体を動かす活動を多く取り入れ、散歩や歩行訓練を日課にしている。なるべく薬に頼らず自然排便できるよう、バナナやヨーグルト、牛乳等の食材を取り入れるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や生活習慣に合わせた入浴支援をしている。浴室は一般家庭用でこじんまりしており一人でゆっくりと入浴を楽しんでいただいている。	午後4時からの入浴とし、少なくとも週3回は入れるよう支援している。嫌がる人には、次の日は順番を一番にしたり声掛けを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので好きな時間に休息したり邪魔されることなく安心して眠れる環境である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬状況について周知しており、保管や服薬確認のみでなく、用法や留意点、副作用についても把握している。処方に変更があった場合は、送りノート等で全職員に速やかな周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で、できそうな調理、裁縫等の手伝いをお願いし、感謝の言葉を返すようにしている。外出や遠足、地域行事への参加等、利用者と相談して決め、張り合いや喜びにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	短時間でも、戸外へ出る機会を作っている。歩行困難者も車椅子を使用し、できるだけ外の空気に触れていただけるよう支援している。普段行けない場所は、本人の意向を家族に伝え一緒に出かけて頂く場合もある。	積極的に声掛けをして利用者の気持を引き出し、ドライブや買い物に出かけたり、急遽出かけることもある。近くの荒神さんにお参りや散歩をする等、決まったコースに毎日出かける人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は本人が所持され、買い物に同行したり、外出先でお土産を購入したりされている。本人の希望があれば、小額でも所持していただき、支払いや買い物していただく経験を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書かれた手紙の投函を手伝ったり来文書を取り次いだりしている。電話はいつでも自由に掛けられるが、頼まれればダイヤルを回したり取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには花や利用者の作品を飾り心なごむ雰囲気大切にしている。童謡や懐かしい流行歌を流して居心地よく暮らせる工夫をしている。食堂や居室、浴室やトイレ等常に清潔に保ち不快な気持ちにならないよう配慮している。	季節の花や果実、利用者の書や手芸、ちぎり絵などの作品があちこちに飾られ、日々の生活が伝わってくるような環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は一人ソファでくつろいだり、食卓で気の合う者同士お茶を飲んだり、テラスで日光浴を楽しんだりして思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、目覚まし時計や手鏡他、日用品等使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらっている。家族が持ってきた鉢植えや生花を飾っている利用者も多い。	化粧品や写真、ぬいぐるみ、花、箒等、利用者に合わせた物を持ち込んでいる。利用者に合わせて、1日の生活の流れや住所を書いた紙を貼るなど、居室担当者は一人ひとりに配慮した支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は個々の利用者の、できる力わかる力を把握し、失敗や混乱が生じないよう支援している。手順を書いた紙を貼ったり、絵や飾り物で場所を知らせる等し、利用者の不安や迷いの軽減のための工夫をしている。		